

<認知症対応型共同生活介護用>  
<小規模多機能型居宅介護用>

## 評価結果報告書

### 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	8
1. 理念の共有	1
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	2
5. 人材の育成と支援	0
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	1
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	0
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	5
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	1
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	0
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	3
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	6
1. その人らしい暮らしの支援	4
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	20

事業所番号	1493800104
法人名	社会福祉法人 秀峰会
事業所名	春風の丘
訪問調査日	平成25年11月17日
評価確定日	平成26年3月31日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION

#### ○項目番号について

外部評価は20項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

#### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[次ステップに向けて期待したい内容]

次ステップに向けて期待したい内容について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

#### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1493800104	事業の開始年月日	平成20年2月1日	
		指定年月日	平成20年2月1日	
法人名	社会福祉法人 秀峰会			
事業所名	春風の丘			
所在地	( 〒224-0014 ) 神奈川県横浜市都筑区牛久保東3-23-35			
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護  <input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	登録定員	名	
		通い定員	名	
		宿泊定員	名	
		定員計	18名	
		ユニット数	2ユニット	
自己評価作成日	平成25年11月1日	評価結果 市町村受理日	平成26年4月22日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

春風の丘は平屋建ての建物に広大な敷地、庭には四季折々の花が咲き乱れ、畑作りも楽しめます。景色も楽しみながら、外でのお茶も楽しむ事ができ、清々しい環境を整えております。近くには大きな公園があり、それに通ずる遊歩道は車道と区別され、とても安全な環境にあります。駅まで徒歩15分程度で、駅周辺には大型デパートが立ち並び、買い物にも大変便利です。地域交流として盆踊り、敬老会、秋祭り、消防訓練などに参加しており、また、地域とは防災協定も締結しているので、災害時には相互協力体制も整えております。安心安全をモットーに、地域の中にあるGHとして、地域交流も活発になっております。医療については、法人内に診療所があるので、24時間、緊急時等直ぐに医療と連携が取れる体制が整っております。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】 (株)R-CORPORATION外部評価事業部

評価機関名	株式会社 R-CORPORATION		
所在地	〒221-0835 横浜市神奈川区鶴屋町3-30-8SYビル2F		
訪問調査日	平成25年11月7日	評価機関 評価決定日	平成26年3月31日

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

●グループホーム春風の丘は、神奈川県全域に「天に星、地に花、人に愛を」テーマに、多彩な福祉関連事業を展開する社会福祉法人秀峰会が平成20年2月に開設した認知症高齢者のグループホームです。横浜市営地下鉄センター北駅より徒歩15分、都筑区牛久保東に広い敷地を確保し、四季折々の花や、畑作りも楽しむ事が出来て、高齢者の生活環境に配慮した平屋建ての佇まいで、近くには大きな公園がある快適住環境のグループホームです。

●理念に「人間が主体である・連帯の輪を無限に広げていく・日に日に新たな今日を創造していく」と謳い、事業方針に「家庭的な環境の下に日常生活の世話と機能訓練で残存能力に応じた自立した生活が送れるよう支援する・地域連携を重視した運営で関係市町村、居宅支援事業所、介護保険施設、地域の保険、医療・福祉サービスとの連携を密にする」と掲げ、全職員で理解共有して、利用者の自立に向けた支援が行われています。

●地域との繋がりは牛久保東の町内会に加入して、敬老会や盆踊りなどの諸行事への参加や、事業所恒例のイベントにはご家族や多くの地域の方々の参加を頂いています。また、都築区消防署々長立会いの下、調印式がCTV、Uチューブで放映される中、相互支援の地域との防災協定も結ばれました。また、利用者の町内清掃への参加等で、愛される存在で地域交流が行われています。更に、小学生の施設見学や介護体験を通じ、認知症の理解を深めてもらい、地域向けの認知症サポーターも実施する等、地域交流が行われています。

●職員の育成では、個々のスキルにあった研修を案内し、勤務調整も行って参加できるように支援を行なっています。また、事業部内でも認知症介護のテーマに沿った研修を実施し、研修で学んだ結果を報告して全職員で共有し、日々のケアに活かして職員の資質向上が図られています。

●防災取り組みでは、災害時に地域と相互支援協力を行う防災協定がTV放映の中結ばれ、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加え、防火管理責任者を配置し、消防計画を立案しています。地域の方の協力も得た定期的な避難訓練が年6回、その他AEDを使つての講習も実施され、職員の防災安全の意識も高くなっています。設備面では、スプリンクラー・自動通報装置・地域に向けたサイレン等も設置され、地域財産との位置づけを受け、地域と共に防災への注力が払われています。

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	春風の丘
ユニット名	すみれ

V アウトカム項目		
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
		2, 利用者の2/3くらいの
		3. 利用者の1/3くらいの
		4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
		2, 数日に1回程度ある
		3. たまにある
		4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
	○	3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
		2, 家族の2/3くらいと
		3. 家族の1/3くらいと
		4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
		2, 数日に1回程度ある
	○	3. たまに
		4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
		2, 少しずつ増えている
		3. あまり増えていない
		4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
		2, 職員の2/3くらいが
		3. 職員の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
		2, 利用者の2/3くらいが
		3. 利用者の1/3くらいが
		4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
		2, 家族等の2/3くらいが
		3. 家族等の1/3くらいが
		4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝、朝礼時に全スタッフで理念の唱和を行ない、日々のケアで実践している。	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく。 と謳われた理念を、ホーム内に掲げ、又全職員が縮小版を携行して、朝礼時に唱和を行ない、周知に努めています。日々のケアでは入居者を主体に考え、地域の繋がりを大切に、日に新たなる今日に生きる支援が実践されています。	今後の継続
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、町内会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。また、地域との防災協定も締結しており、災害時には相互協力体制も構築している。事業所イベントへや地域行事にも積極的に参加協力しており、地域の中にあるGHとして定着している	牛久保東の町内会に加入していて、敬老会や盆踊りなどの諸行事に参加し、事業所が行なう恒例イベントでの、秋祭りの催し（本年は雨天の為カラオケ大会に切り替え町内の方々20名以上）の参加を頂きました。また、都築区消防署長立会いの下、地域との防災協定が結ばれ（調印式がCTV,Uチューブで放映される）日常的には利用者の散歩時に近隣の方々への挨拶で、笑顔で応えて頂く等、愛される存在で地域交流が行われています。	今後の継続
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験を通じて認知症の方へのアプローチの仕方を伝えている。ボランティア活動を通じ認知症の理解を深めてもらっている。地域向けの認知症サポーターも実施している		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解してもらい意見交換を行なっている。また、話し合われた内容を職員間で共有し、日々のケアに活用している。	町内会長・総務部長、民生委員、都築区役所職員、包括支援センター職員、利用者、利用者家族、事業所管理者、職員の参加で運営推進会議は2ヶ月に1回、開催され、ホーム概況、行事計画、事故などの運営状況を報告し、理解を頂いています。また、忌憚のない意見・改善提案をもらい、内容を確認しながら職員間で共有し、日々のケアに活用しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事へ参加して頂き現状の報告・それに対する助言を頂いている。	区の高齢者事業推進課とは介護現場の情報の入居者状況・事故の報告等も伝えています。また、法令解釈や、不明点など些細なことにも相談に載って頂き、連絡は密に取れています。また、中川地域包括支援センターの職員の方には運営推進会議やホームの行事にも参加して頂き、現状の報告・それに対する助言をもらう等、協力関係が築かれています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的には居室は施錠を行っておりません。（夜間帯も外窓のみ）会議で身体拘束の定義や事例を話し合い日々の業務に照らし合わせて認識を深める様にしています。	緊急止むを得ない場合以外は拘束は行わない、と運営規定・契約書に謳って、身体拘束廃止に関する研修も行っています。全職員が拘束、虐待の行為とその禁止について深く認識し、日々の介護の中に拘束に該当する行為が無いかを会議で全職員でチェックし、行なわないことを周知しています。玄関入口は周辺の交通量の関係から、ご家族の了解を得て施錠しています。館内はユニット間を含め、見守りで対応し、自由に出入りが出来ています。	今後の継続
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し事例検討することで職員自身のご利用者に即して行うケアと照らし合わせて認識を深めるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象として研修に参加して職員への周知を行っている。青年後見人制度の利用をされている方、これから利用する家族に相談と情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望されての事前説明時や入居契約時に費用や苦情対応、解約に該当する事由などの説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での代表者の意見や面会時に意見を伺い反映させている。ご意見箱の設置	意見や苦情の受け付けに関し、重要事項説明書でその窓口担当者名及び公的機関窓口を明記し、ご家族には契約時に説明しています。また、利用者の仕種や表情からも思いの察知を心掛けています。ご家族には来所時等の機会に直接伺い、また、管理者または職員から意見、要望を聞き、（例：電話は緊急時に限って欲しい）受けた要望・意見は検討の上、運営に反映させ、結果をご家族にも報告しています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上ユニット毎に会議を行い意見や提案を聞く機会を設けており、職員の意見をホームの運営に反映させている	管理者は職員とは日頃から何事も気軽に話し合える関係を作り、職員との会話の中から意見、要望などを吸い上げています。また、毎月、1回以上ユニット毎の会議を開催し、職員から業務改善を提案として出してもらい運営に反映できるよう努めています。代表者へは、管理者から報告を挙げ、職員の意見を運営に反映できる仕組みがあります。	今後の継続
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の全職員の「現状と未来」正職員対象にした「人事考課」提出にて個別に現状や将来への計画などを直接面談にて聴き取り、昇給昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で必要な研修の案内を行い参加できるように勤務調整を行っている。また月1回ある事業部内研修への参加は必ず行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流を持つ機会は多々ある。また、外部への研修参加や地域の連絡会、定期的な他事業所の訪問を行い関係作りを行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学から要望などを伺い、これまでの生活暦を含めて情報収集をして、最初の関係作りに生かしている。また、入居当初は密な関わりを持ち、ホームでの生活の様子の情報収集をして次に反映させるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定でない事を踏まえ、将来の変化を予想することも必要だが、現段階で何が必要で何が出来るかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を確認した上で日常生活の中での家族的な場面に参加し職員と共に活動して頂くようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と職員の双方が協力し合う事でご本人が安心した生活が送れる事を説明し、様々な事でご協力を頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、近隣の方との交流が継続していくように場所の提供を含めて支援してる。	日常の会話からその方の人間関係や地域のと関わりを知るように心がけています。また、これまでの関わりの場所や人間関係は、生活暦等で理解に努め、ホームでは懐かしの場所への訪問や親戚、知人、友人等との交流が継続できるよう支援しています。電話の取次ぎに加え、手紙を出す事を勧め、場所の提供なども含め、支援を行なっています。	今後の継続



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースに於いて職員が関わる事でコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先へ訪問や施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行い、必要に応じて電話連絡も行っている		
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通じてご本人の意思を把握し状況確認を行いご本人にとっての最善策を検討している。	管理者から自己実現の重要性を職員に伝え、本人の意向に合わせた支援が出来るよう、今までの生活暦と日頃の会話を通じて意向の把握を行っています。また、意思表示が難しい利用者には、寄り添いの支援の中でスキンシップに努め、仕種や表情から汲み取るようにしています。加えて、ご家族の意見も尊重して、本人本位を前提に最善策を検討して支援を行なっています。	今後の継続
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活暦・サービス利用などの状況をご本人や家族から状況収集を行なっている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人一人最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンスなどご利用者個々の情報を交換することで最新の現状を把握し必要に応じてご家族や医療へ相談して介護計画に反映できるように努めている。	一人ひとりに適した内容で本人がより良く暮らす為、職員の観測結果に基づく日常生活の状況・変化等を毎朝のミーティング、定期的な職員カンファレンスで、話し合っています。家族の意見も加え、計画作成担当者との話し合で、残存能力が十分に発揮できる介護計画を立案しています。また、日々の記録に基づき、利用者の満足度も測り、支援が計画に副った適した内容かのチェックシステムを構築し、評価判定を行なっています。	今後の継続
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟なサービスの多機能化にとりくんでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼することでホームにて多彩な活動（ちぎり絵・カラーバード）を行ないご利用者の生活が豊かになるように支援している		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関による訪問診療を利用させていただきながら、必要時には専門の医療を受けられるように支援している。	本人、家族の意思を尊重して希望の医療機関をかかりつけ医とする事を契約時に伝えていきます。事業所では法人内医療機関「みずほクリニック港北」（内科一般）ハローデンタル歯科と医療連携体制の提携を持っています。みずほクリニックの医師及び看護師により24時間・365日の対応を可能とし、利用者一人ひとりの状況に応じた適切な医療支援が行われています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内医療機関により週1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医にご指示を仰ぎ早期の支援が受けられる			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに伝えるようにしている。また退院に向け、ソーシャルワーカーとの連絡も図っている			
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回契約時に重度化や終末期に係わる指針を提示して、説明し事業所が対応可能な範囲を確認して同意書を交わしている。関係医療機関とも連携をとっている。	事業所では、重度化や看取りに関する指針を定め、事業所として出来る事を本人・家族に説明をして同意書を交わしています。本人・家族の意思を尊重した、繰り返しての話し合いの下に、納得の得られる方向を見出し、主治医、看護師からの終末医療の支援について確認し、確保した上で、看取り介護支援を行なう事を全職員で共有してケアに当たっています。事業所では管理者をはじめ、多くの職員が看取り介護を経験しています。		今後の継続
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し全職員に配布し研修などにて情報を共有している。また、訓練に関しては救命講習を随時受けている			
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回定期的な避難訓練を行なっている。地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。	緊急時対応として様々な災害を想定し、重要事項説明書・運営規定の記載に基づき、ホームでは災害時通報連絡網の整備に加え、防火管理責任者の配置と、消防計画を立案し、定期的な避難訓練を年6回、地域との防災協定締結に基づいて自治会の方の参加も得て行われています。また設備としてスプリンクラー・自動通報装置・町内向け緊急通報サイレンが設置されています。		今後の継続

自己評価	外部評価	項 目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても団体行動ではない事を念頭に置き個人を尊重した声掛けを行いプライバシーに配慮した支援を行なっている。	運営方針に利用者一人ひとりの人格を尊重し、安心して日常生活を送ることが出来るよう支援をする事を謳い、また、重要事項説明書・運営規定・契約書では守秘義務を謳って全職員で個人を尊重したプライバシー保護に十分注意を払い、理解共有に努めています。日々の現場に於ける会話も、親しみと人格を尊重した話しかけで、トイレ誘導もさり気なく他の人に気付かれることの無い配慮で行われています。	今後の継続	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者に話しに傾聴し本人が自己決定できるように働き変えている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いする事のないように配慮している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している			
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は勿論だが、食事中にBJMや座席・職員の座る位置を含めた食事摂取が進むような環境作りをしている。準備や片付けは基本参加して貰っているが、全員に強制はしていない。	食事作りでは、食材供給会社「福祉デラックス」に献立計画表とカロリー計算付きレシピと食材の依頼し、職員が調理を行っています。食事時は職員と入居者が同じテーブルにつき、BGMの流れる中、利用者に合わせたペースで楽しく食事介助が行われている事を調査時の食事同席で確認出来ました。また、利用者が食後の下膳などを手伝う事で、役立ちの実感が味わえる工夫をした支援が行われています。	今後の継続	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食などで補えるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛・誘導や一人ひとりの排泄パターンを確認して状況に応じた排泄の支援を行なっている。	その人に合わせた時間を見計らったのトイレ誘導で、オムツ使用を出来る限り減らす事が考えられた、自立排泄を目指した支援が行われています。失敗した場合でも他の人に気付かれない下着交換で、適切な支援が行われています。また、夜間においても、24時間体制の排泄記録を作成し睡眠時間を妨げ無い事を前提に、声かけでの支援が行われています。	今後の継続
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	定期的な声掛・誘導や一人一人の排泄パターンを確認して状況に応じた排泄の支援をお行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週2回と言う制度の回数を下回らないように注意しているが、入浴対象となる方の意思を尊重する事と、職員側の都合をご利用者に押し付けないように配慮している。	入浴する事で、褥瘡など体調の変化も発見出来る重要な役割があり、本人の意向を確認しながら希望に合わせてバイタルチェックと共に行なっています。週2回以上を基本とし、ゆったり入浴が出来るよう無理強いをしない支援をしています。季節には菖蒲湯や柚子湯などで志向を変えて、楽しみの工夫を取り入れています。	今後の継続

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論のこと、昼間の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息が出来るように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有して理解に努める。また服薬の管理と都度の状態の変化も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛け支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出希望のあるご利用者の要望を受けて散歩や買い物などにお連れしている。特別な場所への対応に関してはご家族の協力を頂いて支援している。	晴天時には季節感や外の空気を楽しんで頂くように、希望に応じて施設の前の公園などへの散歩や、買い物に行くなど、外へ出る機会の支援をしています。普段行けない特別な場所へは事前に計画・準備をして、桜見物や桜木町の赤レンガ倉庫見物等へ全員で楽しめるよう、家族やボランティアの協力を得て外出ドライブを実施しています。時には外食レクなども実施しています。	今後の継続
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の小額の現金所有として支援している。また、ご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。手紙の作成、投函に関しても支援している			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をすることの無い様に配慮し、季節を感じられるような飾り付けや、外出などで撮った写真を掲示して楽しんでいただいている。	玄関ホール入ると、すみれ・たんぼぼの各ユニットに別れ、夫々のユニットは事務室・調理室・浴室が並び、T字型に会話やレクが楽しめるダイニング兼リビングが有ります。左右に居室が並ぶレイアウトで、リビングにはテーブルが置かれ、皆が寛げる場となっています。館内は清掃が行き届き・異音・異臭もなく、換気・室温管理も職員のチェックで維持され、利用者の作品や花で、季節が感じられます。また、外出時の写真が掲示され、家庭的な温かい環境作りがされています。		今後の継続
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアーを自由に使えるように工夫している			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように長年愛用されていた家具や愛着品を配置、使用して頂きご本人が居心地よく過ごせる様に工夫している。	個々の居室にはベット、クローゼットが備品としてあり、また、使い慣れた思い出の家具(箆笥、椅子、鏡など)の持ち込みに加え、ぬいぐるみ、家族写真、自作のぬりえ、習字なども飾られ、自宅の感覚で思い思いの設えがされています。また、居室入口には裏面に緊急時の救出確認が記された木製の名札が掛けられ、安全対策が施されています。		今後の継続
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促し見守りを行う。また、動線に工夫をして安全に過せるように支援している			

# 目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

---

作成日

平成25年11月17日

---

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1 1 ～ 1 4	服薬事故0に向けての取組み	安心安全な取組み	法人全体で無事故0活動を実施	1年
2	1 1 ～ 1 4	職員の定着化	スタッフの満足度を高める事により、サービスの質の向上を目指す	働きやすい環境作りと満足度を高め、職員の定着化を目指す	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。



事業所名	春風の丘
ユニット名	たんぽぽ

V アウトカム項目	
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者の
	2, 利用者の2/3くらいの
	3. 利用者の1/3くらいの
	4. ほとんど掴んでいない
57 利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	<input type="radio"/> 1, 毎日ある
	2, 数日に1回程度ある
	3. たまにある
	4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	<input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族と
	2, 家族の2/3くらいと
	3. 家族の1/3くらいと
	4. ほとんどできていない
64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように
	2, 数日に1回程度ある
	<input type="radio"/> 3. たまに
	4. ほとんどない
65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	<input type="radio"/> 1, 大いに増えている
	2, 少しずつ増えている
	3. あまり増えていない
	4. 全くいない
66 職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての職員が
	2, 職員の2/3くらいが
	3. 職員の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての利用者が
	2, 利用者の2/3くらいが
	3. 利用者の1/3くらいが
	4. ほとんどいない
68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	<input type="radio"/> 1, ほぼ全ての家族等が
	2, 家族等の2/3くらいが
	3. 家族等の1/3くらいが
	4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念 1、人間が主体である 2、連帯の輪を無限に広げていく 3、日に日に新たな今日を創造していく 毎朝、朝礼時に全スタッフで理念の唱和を行い、日々のケアで実践している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	法人の理念を踏まえ、町内会にも加入し、地域住民の方との相互交流を推進している。また、地域との防災協定も締結しており、災害時には相互協力体制も構築している。事業所イベントへや地域行事にも積極的に参加協力しており、地域の中にあるGHとして定着している		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設見学や職場体験を通じて認知症の方へのアプローチの仕方を伝えている。ボランティア活動を通じ認知症への理解を深めてもらっている。地域向けの認知症サポーターも実施している		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、地域住民の方々に運営状況を理解してもらい意見交換を行っている。また、話し合われた内容を職員間で共有し、日々のケアに活用している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	中川地域包括支援センターの職員の方に運営推進会議やホームの行事へ参加していただき現状の報告・それに対しての助言を頂いている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜間帯を除き、基本的には、居室は施錠を行っておりません。（夜間帯も外窓のみ） 会議で身体拘束の定義や事例を話し合い日々の業務に照らし合わせて認識を深めるようにしています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	虐待の定義を認識し事例検討することで職員自身のご利用者に即して行うケアと照らし合わせて認識を深めるようにしている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者を対象とした研修に参加して職員への周知を行っている。成年後見人制度の利用をされている方、これから利用する家族に相談と情報提供を行っている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居を希望されての事前説明時や入居契約時に費用や苦情対応、解約に該当する事由等の説明を行っている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での代表者の意見や、面会時に意見を伺い反映させている。ご意見箱の設置		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回以上ユニット毎に会議を行ない意見や提案を聞く機会を設けており、職員の意見をホームの運営に反映させている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の全職員の「現状と未来」正職員対象にした「人事考課」提出にて個別に現状や将来への計画等を直接面談にて聞き取り、昇給・昇格へ反映できるように努めている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々のスキルにあったケアが出来ているか把握した上で必要な研修の案内を行ない参加できるように勤務調整を行っている。また月1回ある事業部内研修への参加は必ず行っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	法人内の職員との交流を持つ機会は多々ある。また、外部への研修参加や地域の連絡会、定期的な他事業所の訪問を行ない関係作りを行っている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の施設見学時から要望等を伺い、これまでの生活歴を含めて情報収集をして、最初の関係作りに活かしている。また、入居当初は密な関わり持ち、ホームでの生活の様子の情報収集をして次に反映させるようにしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や契約の折に状況を聞く機会を設け、ご家族の不安が最小限になるように努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	心身の状態は一定ではない事を踏まえ、将来の変化を予測する事も必要だが、現段階で何が必要で何が出来るかを考慮した支援に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の意思を確認した上で日常生活の中での家事的な場面に参加し職員と共に活動して頂くようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と職員の双方が協力しあう事でご本人が安心した生活が送れることを説明し、様々なことでご協力を頂いている		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族やご友人、近隣の方との交流が継続していくように場所の提供を含めて支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共有スペースにおいて職員が関わることでコミュニケーションがスムーズに図れるように努めている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の入所先への訪問や施設宛に届いた郵便物の転送等の手配を行ない、必要に応じて電話連絡も行っている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の方との会話を通じてご本人の意思を把握し状況確認を行いご本人にとっての最善策を検討している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に生活歴・サービス利用等の状況をご本人やご家族から情報収集を行っている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の職員同士の申し送りによる情報の共有によって一人ひとりの最新の心身の状態を把握できるように努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的な職員カンファレンス等でご利用者個々の情報を交換する事で最新の現状を把握し必要に応じてご家族や医療へ相談して介護計画に反映できるように努めている			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の個人記録への記載事項を共有し、ケアの実践や介護計画の見直しに反映させている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟なサービスの多機能化にとりくんでいる	ご本人やご家族を取り巻く環境の変化に応じて、行政のサービスや利用可能な民間のサービスの紹介を行っている			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方に依頼する事でホームにて多彩な活動（ちぎり絵・カラーバード）を行ないご利用者の生活が豊かになるように支援している			
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	法人内医療機関による訪問診療を利用していたきながら、必要時には専門の医療を受けられるように支援している			



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	法人内医療機関により週に1回看護師が訪問しご利用者の状況を把握し、必要時には主治医に指示を仰ぎ早期の支援が受けられる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に必要な情報を関係医療機関に対して速やかに伝えるようにしている。また、退院に向け、ソーシャルワーカーとの連携も図っている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	初回契約時に重度化や終末期に関わる指針を提示して、説明し事業所が対応可能な範囲を確認して同意書を交わしている。関係医療機関とも連携をとっている		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルを作成し全職員に配布し研修等にて情報を共有している。また訓練に関しては救命講習を随時受けている		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年6回定期的な避難訓練を行っている。地域との防災協定も締結しており、災害時における相互協力体制が確立されている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	共同生活の場であっても団体行動ではない事を念頭に置き個人を尊重した声掛けを行ないプライバシーに配慮した支援を行っている		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご利用者が随時職員に希望を伝えられる環境を設定し、職員はご利用者の話しに傾聴し本人が自己決定できるように働きかけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の活動への参加も個人の意思決定を尊重し無理強いすることのないように配慮している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご利用者の個性を尊重し、上手く着る物を決められない方へも「その人らしさ」が反映されるように思案している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は勿論だが、食事中にBGMや座席・職員の座る位置を含めた食事摂取が進むような環境作りをしている。準備や片付けは基本参加してもらっているが、全員に強制はしていない		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	三度の食事・10時・15時・就寝前の水分補給とそれぞれの食事摂取量に応じて間食等で補えるように支援している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に個々のレベルにあった口腔ケアの支援を行っている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	定期的な声掛け・誘導や一人ひとりの排泄パターンを確認して状況に応じた排泄の支援を行っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	知識として便秘を理解し個々の排便のチェック表を活用して改善に取り組んでいる。また、便秘が続く場合は往診医より指示を受けた用量にて服薬による改善方法も行っている		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	週に2回という制度の回数を下回らないように注意しているが、入浴対象となる方の意思を尊重する事と、職員側の都合をご利用者に押し付けられないように配慮している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠は勿論の事。昼間の習慣や時々個々の身体状況に応じて安心して休息できるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診後の薬の情報を職員が共有し理解に努める。また服薬の管理と都度の症状の変化も確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中でご利用者が「楽しい」と感じられる事を提供するように心掛けて支援している		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	フロアの安全が確認できた時は外出希望のあるご利用者の要望を受けて散歩や買い物等にお連れしている。特別な場所への対応に関してはご家族の協力を頂いて支援している		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個々の認知能力によってホーム預かりや個人の少額の現金所有として支援している。またご利用者より依頼のあった品物への支払いもご家族の了解を得た上で柔軟に対応している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所の固定電話を使用し、ご本人からの申し出や外線電話の取次ぎを行っている。手紙の作成、投函に関しても支援をしている		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間に集まる方が不安感を持たず、また混乱をすることのないように配慮し、季節を感じられるような飾り付けや、外出等で撮った写真を掲示して楽しんでいただいている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアを自由に使えるように工夫している		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	個々の居室内で安心して過ごせるように長年愛用されていた家具や愛着品を配置、使用していただきご本人が居心地良く過ごせるように工夫している		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	環境の把握が認識できる方には自立を促がし見守りをおこなう。また、動線に工夫をして安全に過ごせるように支援している		

# 目 標 達 成 計 画

事業所

春風の丘

作成日

平成25年11月7日

〔目標達成計画〕

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1 1 ～ 1 4	服薬事故0に向けての取組み	安心安全な取組み	法人全体で無事故0活動を実施	1年
2	1 1 ～ 1 4	職員の定着化	スタッフの満足度を高める事により、サービスの質の向上を目指す	働きやすい環境作りと満足度を高め、職員の定着化を目指す	1年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。